

# 岐阜赤十字病院内科における甲状腺（および副甲状腺）疾患： 2013年から2015年までの3年間の検討

中 村 重 徳   増 田 輝 幸   川 地 慎 一  
伊 佐 治 眞 子   石 森 正 敏

**要旨：**2013年1月初めから2015年12月末までの3年間に岐阜赤十字病院内科を受診した甲状腺（および副甲状腺）疾患患者3,327名（男性642名，女性2,685名）を検討した。この内，他院より紹介を受けた患者数は2,439名（全体に対する紹介率は73%）であった。住所は岐阜市1,734名（52%），岐阜市以外の岐阜県が1,535名（46%），他県が58名（2%）であった。疾患別の検討では腺腫様甲状腺腫1,533名（46%），慢性甲状腺炎403名（12%），バセドウ病361名（11%），甲状腺悪性腫瘍227名（7%）等であった。

## 【はじめに】

われわれは1988年単年<sup>1)</sup>，1998年から2000年の3年間<sup>2)</sup>，2001年単年<sup>3)</sup>，1998年から2007年の10年間<sup>4)</sup>，2008年から2012年の5年間<sup>5)</sup>に当院を受診された甲状腺疾患（および副甲状腺疾患）患者について検討し，これまで5回本誌に発表してきた。

今回，その後の2013年から2015年の3年間の患者につき検討したので報告する。なお，1998年以降，患者データはファイルメーカープロによりデータベース化してある。

## 【対 象】

2013年1月初めから2015年12月末までの3年間に岐阜赤十字病院内科を受診し，当科医師の診察を受け，頸部エコー検査を始めて受けた患者を対象とした。

## 【結 果】

### 1) 患者数と性別

検討できた例は男性642名（19%），女性2,685名（81%），合計3,327名であった。年毎

の男女別の患者数と合計を図1に示す。2002年以前は毎年600名弱であり，その後，徐々に増加し<sup>4)</sup>2008年に初めて1,000名を超えた。その後は，1,000名を持続的に超し，2013年は1,136名，2014年は1,042名，2015年は1,149名であった。

平均年齢（±標準偏差）とその範囲は，2013年：男性（225名）57.0±16.8歳（5-94歳），女性50.6±17.7歳（6-91歳），2014年：男性（191名）54.4±18.1歳（6-100歳），女性50.5±18.8歳（4-92歳），2015年：男性（226名）54.0±18.3歳（12-90歳），女性51.6±17.2歳（4-97歳）であった。1998年の男性の平均年齢は45.0歳，女子45.6歳であった<sup>1)</sup>。頸動脈硬化を発見するため，頸動脈エコーが一般臨床で広く行われるようになったことも，受診者の年齢上昇の一因と考えられる<sup>5)</sup>。

### 2) 受診動機と紹介率

図2に他院より紹介を受けた初診患者数とそれ以外の患者数に分けた結果を示す。期間中，紹介初診は1年当たり800名前後，それ以外の受診は1年当たり300名前後であった。紹介初診患者以外の患者を，紹介が無い初診患者，院内の各科より当科へ紹介された患者，再診患者（多くは当院の人間ドックから）の

岐阜赤十字病院内科における甲状腺（および副甲状腺）疾患：  
2013年から2015年までの3年間の検討

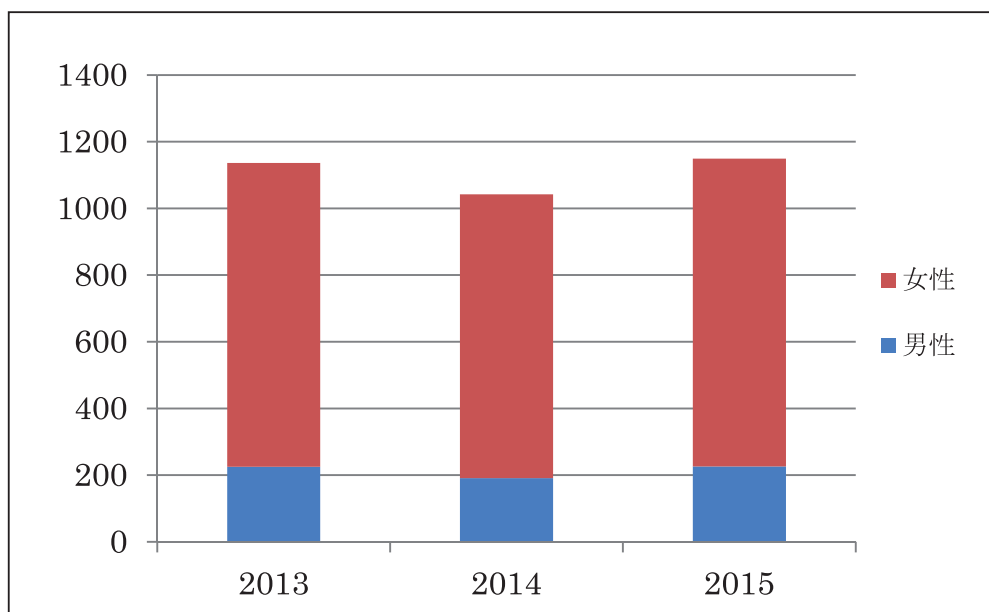


図1 対象患者（2013－2015）

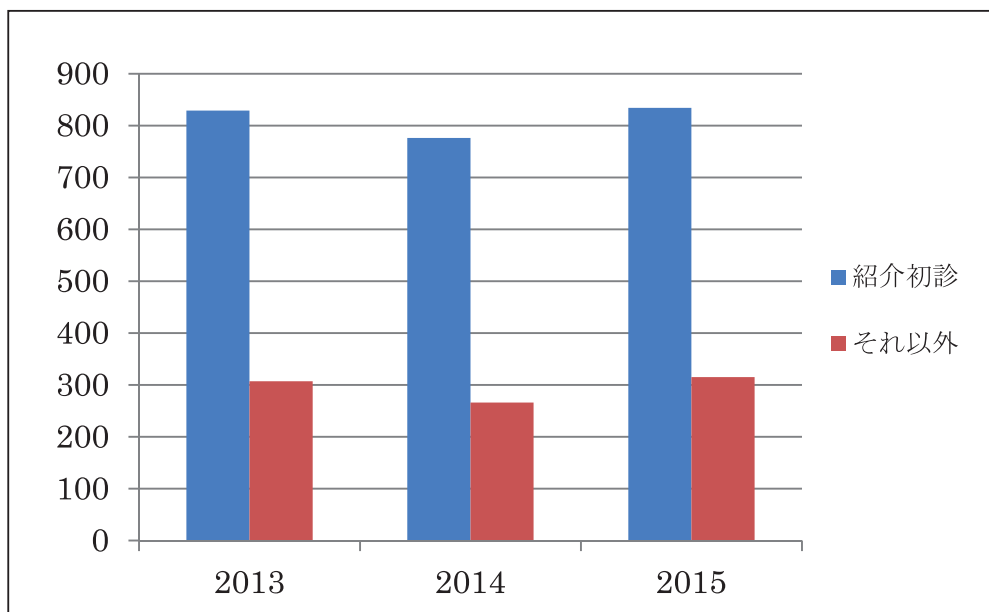


図2 紹介初診とそれ以外に分けた患者数の推移（2013－2015）

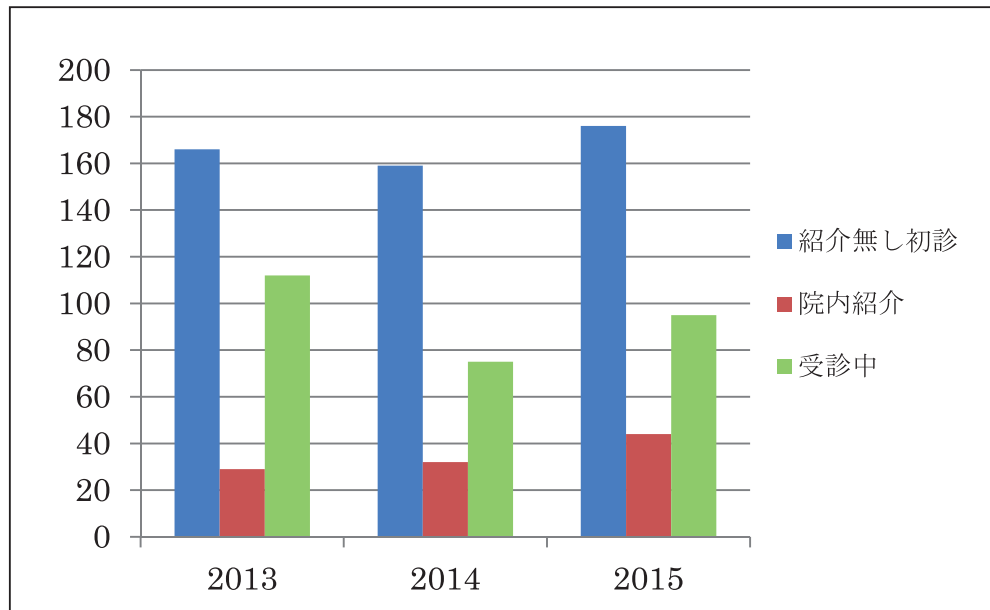


図3 受診動機による検討（2013－2015）

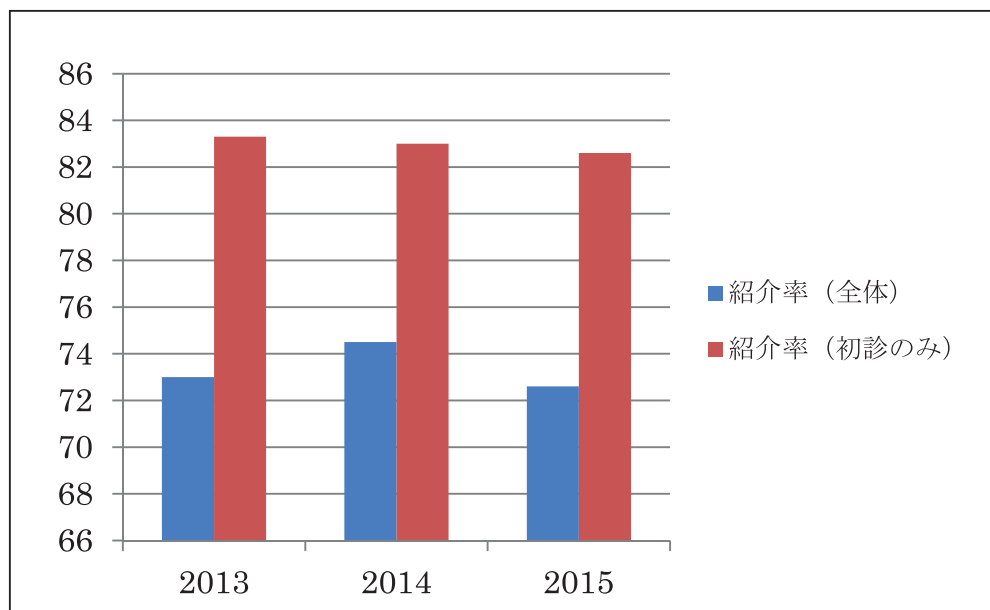


図4 紹介率（全患者，初診のみ）（2013－2015）

岐阜赤十字病院内科における甲状腺（および副甲状腺）疾患：  
2013年から2015年までの3年間の検討

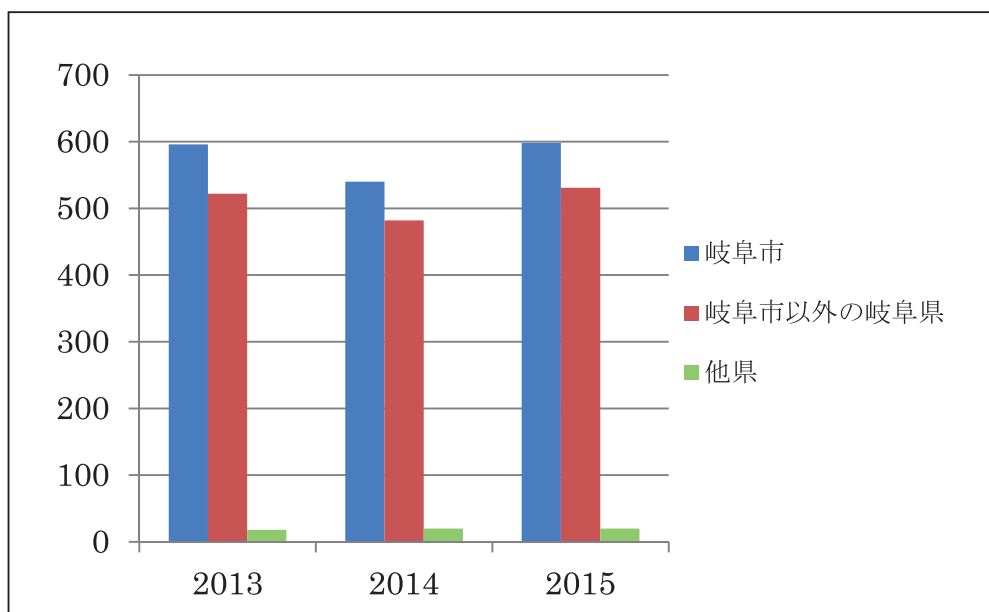


図5 患者の住所（2013－2015）

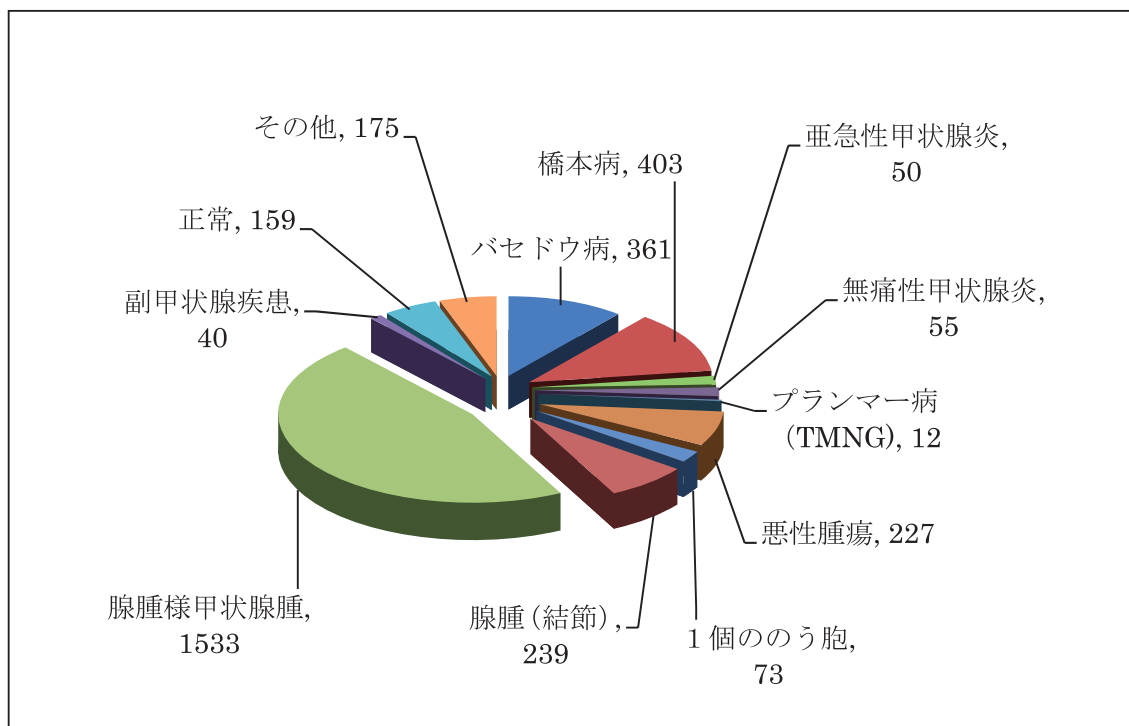


図6 疾患別分布（2013－2015）

表1 岐阜市以外の岐阜県からの紹介初診患者の住居地

	1998	2007	2012	2015
高山市	0	1	1	3
郡上市	4	2	3	6
下呂市	0	9	10	9
東白川村	1	0	0	0
白川町	0	0	0	4
可児市	0	1	3	1
美濃加茂市	3	2	3	3
関市	25	18	24	38
美濃市	2	7	5	5
各務原市	12	29	56	69
山県市	24	21	24	37
本巣市	8	31	31	50
揖斐川町	3	4	6	7
大野町	1	14	12	28
池田町	5	4	6	9
大垣市	1	25	32	20
垂井町	2	10	6	3
関ヶ原町	1	8	1	0
海津市	0	2	4	1
瑞穂市	5	19	30	47
羽島市	2	6	8	8
岐南町	8	15	22	11
笠松町	2	1	6	12
北方町	5	17	11	23
神戸町	0	1	7	4
安八町	1	2	2	7
輪之内町	0	2	0	2
坂祝町	0	1	1	2
養老町	1	0	3	2
中津川市	0	0	2	0
多治見市	0	0	1	0
川辺町	0	0	1	1
富加町	0	0	1	0
御嵩町	0	0	1	0
合計	116	252	323	412

3者に分けたデータを図3に示す。3年間の中では院内紹介がやや増加し、再診患者が減少傾向を示した。全患者および初診に対する紹介初診患者の%を図4に示す。全体に対する紹介率は73%前後、初診のみ（紹介初診患者数／（紹介初診患者数＋紹介無し初診患者数））の紹介率は83%程度であった。

### 3) 地域別分布

患者の現住所を岐阜市、それ以外の岐阜県および他県の3群に分けた検討を表5に示す。

3年間での検討では岐阜市在住が1,734名（52%）、岐阜市以外の岐阜県在住が1,535名（46%）、他県在住が58名（2%）であった。1998年から2007年の10年間<sup>4)</sup>（岐阜市54%、岐阜市以外の岐阜県44%、他県3%）および2008年から2012年の5年間<sup>5)</sup>（岐阜市54%、岐阜市以外の岐阜県44%、他県2%）とほぼ同様の結果であった。他県58名の内、愛知県在住は46名（79%）を占めていた。その他は東京都4名、富山県2名、1名が山梨県、京都府、大阪府、滋賀県、三重県、岡山県であった。

### 4) 岐阜市以外の岐阜県在住で紹介を受けた初診患者（表1）

1998年と2007年<sup>4)</sup>及び2012年<sup>5)</sup>を対照とした2015年の岐阜市以外の紹介患者の住所別での数を示す。2012年と比較し紹介患者は89名増加していた。2012年と比較し10名以上増加したのは関市、各務原市、山県市、本巣市、大野町、瑞穂市、北方町であった。一方、10名以上減少したのは大垣市、岐南町であった。

### 5) 疾患別の検討

重複の無いよう、主な疾患で分類した成績を図6に示す。悪性腫瘍は227例で、分化癌の乳頭癌・濾胞癌以外の悪性腫瘍は7例（甲状腺髄様癌は1例、悪性リンパ腫は4例、未分化癌は2例）であった。その他175例に分類された中には、PCTD<sup>6)</sup>30例、低T3症候群12例、妊娠甲状腺中毒症7例、Zenker憩室4例、甲状腺の低形成／片葉欠損3例、萎縮性甲状腺炎2例、急性化膿性甲状腺炎2例、アミオダロンによる甲状腺異常2例、炭酸リ

チウムによる甲状腺異常2例，などが含まれている．全体に占める腺腫様甲状腺腫の割合は46%（1533名），慢性甲状腺炎12%（403名），バセドウ病11%（361名），甲状腺悪性腫瘍は7%（227名）であった．2008年から2012年の5年間はそれぞれ42%，15%，14%，6%であり<sup>5)</sup>，疾病構成に大きな変化は認めなかった．

### 【最 後 に】

当院内科における最近の3年間の甲状腺（および副甲状腺）疾患患者をまとめ報告した．紹介率は以前より上昇し（2008年から2012の5年間は毎年700名前後），年間の紹介患者数はここ3年間800名前後である．臨床レベルを更に向上させ，年間紹介患者が1,000名を超えるよう今後一層努力したい．

### 文 献

- 1) 中村重徳ほか：当院内科の甲状腺疾患：1988年初診患者．岐阜赤十字病院医学雑誌 1：21-25，1989
- 2) 中村重徳ほか：当院内科の甲状腺疾患（副甲状腺を含む）：1998-2000年初診患者．岐阜赤十字病院医学雑誌 13：17-21，2001
- 3) 中村重徳：当院内科の甲状腺疾患（副甲状腺を含む）：2001年初診患者．岐阜赤十字病院医学雑誌 14：55-56，2002
- 4) 中村重徳ほか：当院内科の甲状腺（および副甲状腺）疾患：1998年から2007年までの10年間の検討．岐阜赤十字病院医学雑誌 20：3-8，2008
- 5) 中村重徳ほか：当院内科の甲状腺（および副甲状腺）疾患：2008年から2012年までの5年間の検討．岐阜赤十字病院医学雑誌 25：3-8，2013
- 6) 中村重徳ほか：岐阜赤十字病院におけるpolycystic thyroid disease（PCTD）の検討．岐阜赤十字病院医学雑誌 24：3-6，2012